



インストール（Linux OnCommand Insight

NetApp
October 24, 2024

目次

インストール（Linux）	1
インストールの前提条件	1
Insightのインストール手順	9
Insightのアップグレード	23
OnCommand Insight をアンインストールしています	30

インストール (Linux)

インストールの前提条件

OnCommand Insight をインストールする前に、現在のソフトウェアバージョンをダウンロードし、適切なライセンスを取得して、環境をセットアップする必要があります。

OnCommand Insight をインストールする前に、次のものがあることを確認してください。

- ・ダウンロードしたインストールパッケージに含まれている最新バージョンのOnCommand Insight ソフトウェアファイル
- ・ダウンロードしたOnCommand Insight バージョンを操作するためのライセンス
- ・最小限のハードウェアおよびソフトウェア環境

現在の製品では、以前のバージョンのOnCommand Insight 製品では使用されていなかった追加のハードウェアリソース (OnCommand Insight 製品の機能強化のため) が消費される可能性があります。

- ・OnCommand Insight サーバ、Data WarehouseとReporting、およびRemote Acquisition Unitのハードウェアとネットワークの構成を含む導入計画。

導入を計画します

導入を成功させるには、OnCommand Insight をインストールする前に特定のシステム要素を考慮する必要があります。

このタスクについて

Insightの導入計画では、次のシステム要素を考慮する必要があります。

- ・Insightアーキテクチャ
- ・監視するネットワークコンポーネント
- ・Insightのインストールの前提条件とサーバ要件
- ・Insight Webブラウザの要件

データソースのサポート情報

設定計画の一環として、環境内のデバイスをInsightで監視できることを確認する必要があります。そのためには、データソースサポートマトリックスでオペレーティングシステム、特定のデバイス、プロトコルの詳細を確認できます。一部のデータソースは、オペレーティングシステムによっては使用できない場合があります。

データソースサポートマトリックスの最新バージョンの場所

OnCommand Insight データソースサポートマトリックスは、サービスパックのリリースごとに更新されます。ドキュメントの最新バージョンについては、を参照してください ["NetApp Support Site"。](#)。

デバイスの識別とデータソースの計画

導入計画の一環として、環境内のデバイスに関する情報を収集する必要があります。

環境内の各デバイスについて、次のソフトウェア、接続、および情報が必要です。

- OCIサーバが解決できるIPアドレスまたはホスト名
- ログイン名とパスワード
- デバイスへのアクセスのタイプ（コントローラや管理ステーションなど）



ほとんどのデバイスには読み取り専用アクセスで十分ですが、管理者権限が必要なデバイスもあります。

- データソースポートの要件に応じたデバイスへのポート接続
- スイッチの場合、SNMPの読み取り専用コミュニティストリング（スイッチへのアクセスを許可するユーザIDまたはパスワード）
- デバイスに必要なサードパーティ製ソフトウェア（Solutions Enablerなど）。
- データソースの権限と要件の詳細については、Web UIヘルプまたは_ OnCommand Insight 構成および管理ガイド_で「ベンダー固有のデータソースリファレンス」を参照してください。

OnCommand Insight で生成されるネットワークトラフィック

OnCommand Insight で生成されるネットワークトラフィック、ネットワークを通過する処理データの量、およびOnCommand Insight によるデバイスへの負荷は、多くの要因によって異なります。

トラフィック、データ、および負荷は、次の要因に基づいて環境によって異なります。

- 生データ
- デバイスの構成
- OnCommand Insight の導入トポロジ
- インベントリデータやパフォーマンスデータソースのポーリング間隔が異なるため、低速なデバイスを検出したり帯域幅を節約したりするために、間隔を短くすることができます

OnCommand Insight で収集される生の構成データは大きく異なる場合があります。

次の例は、設定データがどのように変化し、多くの設定要因によってトラフィック、データ、および負荷がどのように影響するかを示しています。たとえば、2つのアレイにそれぞれ1,000本のディスクがあるとします。

- アレイ1：1,000本のSATAディスクがあり、すべて1TBです。1,000本のディスクがすべて1つのストレージプールに含まれ、ESXクラスタ内の同じ32ノードに対して1,000個のLUNが提供（マッピングおよびマスク）されます。
- アレイ2：2TBのデータディスクが400本、600GBのFCディスクが560本、SSDが40本あります。ストレージプールは3つありますが、FCディスクのうち320本が従来のRAIDグループで使用されています。RAIDグループに分割されたLUNは従来のマスキングタイプ（symmaskdb）を使用し、シンプロビジョニングされたプールベースのLUNは新しいマスキングタイプ（symaccess）を使用します。150の異なるホストに対

して600個のLUNが提供されました。200個のBCV（600個のLUNのうち200個のフルブロックレプリカボリューム）があります。また、別のサイトのアレイ上に存在するボリュームのリモートレプリカボリュームである200個のR2ボリュームもあります。

それぞれ1,000本のディスクと1,000個の論理ボリュームで構成されています。データセンターで消費するラックスペースが物理的に同じである場合もあれば、同じファームウェアを実行している場合もありますが、2つ目のアレイの構成は1つ目のアレイよりもはるかに複雑です。

MariaDBをアンインストールしています

OnCommand Insight またはData Warehouseをインストールする前に、InsightサーバまたはData WarehouseサーバでMariaDBをアンインストールする必要があります。アンインストールしないと、インストールを続行できません。MySQLはMariaDBと互換性がありません。MariaDBを削除せずにどちらかのサーバにインストールしようとすると、MariaDBをアンインストールするように指示するエラーメッセージが表示されてインストールが終了します。

作業を開始する前に

sudo権限が必要です。

手順

1. Insight Serverにログインします。
2. MariaDBコンポーネントのリストを取得します。

```
rpm -qa | grep mariadb
```

3. サーバにインストールされているMariaDBコンポーネントごとに、次のコマンドを入力します。

```
yum remove component_name
```

Insight Serverの要件

専用のサーバを使用することを推奨します。他のアプリケーションがインストールされているサーバにはInsightをインストールしないでください。製品の要件が満たされいれば、物理サーバと仮想サーバの両方がサポートされます。

OnCommand Insight サーバソフトウェアをインストールするには、sudo権限が必要です。

Insightのコンポーネントの中には、インストール時に依存パッケージが必要なものがあります。Insightをインストールする前に、YUMリポジトリにアクセスできることを確認してください。



OnCommand Insight のサイジングには、データソースのタイプとサイズ、環境内のアセットの数、ポーリング間隔など、さまざまな要素を考慮する必要があります。次のサイジング例はあくまでもガイドラインであり、Insightでテストされた一部の環境を示したものです。環境内でこれらの要素やその他の要素を変更すると、Insightのサイジング要件が変更される可能性があります。これらのガイドラインには、最大90日間のパフォーマンスアーカイブデータ用のディスクスペースが含まれます。

詳細なサイジングガイダンスについては、Insightをインストールまたはアップグレードする前に、担当のセールスエンジニアに問い合わせることを推奨します。

例：

環境要因：	テストしたディスク容量、CPU、メモリ：
80ストレージアレイ4,000ボリューム	250GBディスクスペース8コア
4,000台のVM	32GBのRAM
4,000個のスイッチポート	
160個のストレージアレイ40,000個のボリューム	1TBのディスクスペース12コア
8,000台のVM	48GBのRAM
8,000個のスイッチポート	

要件：

コンポーネント	必須
---------	----

オペレーティングシステム	<p>次のいずれかのライセンスバージョンを実行しているコンピュータ。他のアプリケーションレベルのソフトウェアを実行していないコンピュータ。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux 7.9、8.10、9.4 • CentOS 8ストリーム、CentOS 9ストリーム • Oracle Enterprise Linux 7.9、8.10、9.4 <p>ライセンスバージョンを使用すると、インストールに必要な依存関係がオペレーティングシステムによって自動的に解決されます。</p> <p>Insightをインストールする前に、MariaDBをアンインストールする必要があります。</p> <div style="border-left: 1px solid #ccc; padding-left: 10px; margin-top: 10px;"> i MariaDBをアンインストールすると、Postfix Mail Transport Agentも削除されます。 </div> <p>専用のサーバを使用することを推奨します。</p>
仮想マシン（VM）	このコンポーネントは、インスタンスのCPUリソースとメモリリソースが予約されていれば、仮想環境で実行できます。
メモリとCPU	<p>24~256GBのRAM</p> <p>8~32コア</p>
使用可能なディスクスペース	<p>100GB~3TBのインストールディスクスペース</p> <p>50 GB~1 TBのパフォーマンスアーカイブディスクスペース</p> <p>500GB環境の例では、次のパーティション分割を推奨します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /optディレクトリ-- 50GB • /var/logディレクトリ-- 100GB • /var/libディレクトリ-- 350 GB <p>マウントすることを推奨します /opt および /var ルートファイルシステムとは別のディスクに配置します (/)。</p> <p>InsightのインストールスペースにはSSDディスクを使用することを推奨します。</p>

ネットワーク	<p>イーサネット接続とポート：</p> <ul style="list-style-type: none"> 専用の（静的な）IPアドレスを使用した100Mbpsまたは1Gbpsのイーサネット接続、およびSANのすべてのコンポーネント（FCデバイスやRemote Acquisition Unitなど）へのIP接続。 OnCommand Insight サーバプロセスのポート要件は、80、443、1090~1100、3873、8083、4444₄₄₄₆、5445、5455、4712₄₇₁₄、5500、そして5501 取得プロセスには、ポート12123と5679が必要です。 MySQLにはポート3306が必要です。 Elasticsearchには、ポート9200と9310が必要です <p>ポート443および3306は、存在するファイアウォールを介した外部アクセスを必要とします。</p>
権限	<p>OnCommand Insight サーバに対するsudo権限が必要です。</p> <p>次のフォルダのいずれかがシンボリックリンクである場合は、リンク先ディレクトリに「755」権限があることを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> /opt/netapp /var/lib/netapp /var/log/netapp
リモート接続	インストールおよびインストール後のサポートを容易にするために、WebExアクセスまたはリモートデスクトップ接続を可能にするインターネット接続。
アクセス性	HTTPSアクセスが必要です。
HTTPサーバまたはHTTPSサーバ	Apache HTTPサーバやその他のHTTPSサーバは、OnCommand Insight サーバと同じポート（443）で競合しないようにし、自動的に起動しないようにしてください。ポート443をリスンする必要がある場合は、他のポートを使用するようにOnCommand Insight サーバを設定する必要があります。

Data Warehouseサーバの要件

Data Warehouseサーバは、確立されているハードウェアおよびソフトウェアの要件に対応したコンピュータで実行する必要があります。Apache Webサーバまたはレポート作成

成ソフトウェアがこのマシンにインストールされていないことを確認する必要があります。



OnCommand Insight のサイジングには、環境内のアセットの数、保持する履歴データの量など、さまざまな要素が関係します。次のData Warehouseのサイジング例はあくまでもガイドラインであり、Insightでテストされた一部の環境を示したものです。環境内でこれらの要素やその他の要素を変更すると、Insightのサイジング要件が変更される可能性があります。

詳細なサイジングガイダンスについては、Insightをインストールまたはアップグレードする前に、担当のセルスエンジニアに問い合わせることを推奨します。

例：

環境要因：	テストしたディスク容量、CPU、メモリ：
ストレージアレイ18台、VM 3、400台	200 GBのハードディスク8コア
4、500個のスイッチポート	32GBのRAM
110台のストレージアレイ11、500台のVM	300 GBハードディスク8コア
14、500個のスイッチポート	48GBのRAM

要件：

コンポーネント	必須
オペレーティングシステム	次のいずれかのライセンスバージョンを実行しているコンピュータ。他のアプリケーションレベルのソフトウェアを実行していないコンピュータ。 <ul style="list-style-type: none">Red Hat Enterprise Linux 7.9、8.10、9.4CentOS 8ストリーム、CentOS 9ストリームOracle Enterprise Linux 7.9、8.10、9.4
仮想マシン (VM)	このコンポーネントは、インスタンスのCPUリソースとメモリリソースが予約されていれば、仮想環境で実行できます。
CPU	8~40個のCPUコア
メモリ	32GB~2TBのRAM

利用可能なディスク容量	200GB~512GBのディスクスペースには、少なくとも50GBの空きディスクスペースが必要です /var/lib にパーティションと25GBの空きディスクスペースがあります /opt および /var/log パーティション：
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> • 100 Mbpsまたは1 Gbpsのイーサネット接続 • 静的IPアドレス • OnCommand Insight DWHサーバプロセスの場合は、ポート80、443、1098、1099、3873、8083、4444~4446 • MySQLの場合は、ポート3306

Remote Acquisition Unitサーバの要件

ファイアウォールの背後、リモートサイト、プライベートネットワーク、または異なるネットワークセグメントにあるSANデバイスから情報を取得するには、Remote Acquisition Unit (RAU) をインストールする必要があります。RAUをインストールする前に、オペレーティングシステム、CPU、メモリ、およびディスクスペースの要件を満たしていることを確認する必要があります。

コンポーネント	要件
オペレーティングシステム	<p>次のいずれかのライセンスバージョンを実行しているコンピュータ。他のアプリケーションレベルのソフトウェアを実行していないコンピュータ。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux 7.9、8.10、9.4 • CentOS 8ストリーム、CentOS 9ストリーム • Oracle Enterprise Linux 7.9、8.10、9.4 <p>専用のサーバを使用することを推奨します。</p>
CPU	4 個の CPU コア
メモリ	16GB の RAM
使用可能なディスクスペース	40 GB
ネットワーク	100Mbps/1Gbpsイーサネット接続、静的IPアドレス、すべてのFCデバイスへのIP接続、OnCommand Insight サーバへの必要なポート（80または443）。
権限	RAUサーバに対するsudo権限

OnCommand Insight でサポートされているブラウザ

ブラウザベースのOnCommand Insight Web UIは、いくつかの異なるブラウザで動作できます。

Insightでは、次のブラウザのベータ版以外の新しいリリースがサポートされます。

- Mozilla Firefox
- Google Chrome
- Microsoft Edge の場合

OnCommand Insight に対応したブラウザバージョンの完全なリストについては、を参照してください "NetApp Interoperability Matrix Tool" で確認できます。

Insightのインストール手順

インストールでは、複数のOnCommand Insightコンポーネント、Insight Server、およびData Warehouseをインストールする必要があります。

インストールには、次の主な作業が含まれます。

- OnCommand Insight インストーラをダウンロードしています
- OnCommand Insight サーバをインストールしています
- ライセンスのインストール
- DWHとReportingのインストール（オプション）。別のマシンまたは仮想マシンにインストールする必要があります。ReportingにはMicrosoft Windowsが必要です）。
- Remote Acquisition Unit (RAU) のインストール（オプション）。RAUは、ファイアウォールの内側、リモートサイト、またはプライベートネットワークに配置されたデバイスリソースから情報を取得します

インストールが完了したら、環境に関する情報を取得するようにInsightを設定する必要があります。必要な作業については、_ OnCommand Insight 構成および管理ガイド_ を参照してください。

OnCommand Insight インストーラをダウンロードしています

OnCommand Insight インストーラはNetApp Support Site からダウンロードできます。

作業を開始する前に

NetApp Support Site へのログインが必要です "mysupport.netapp.com"。

また、インストールを開くための解凍ユーティリティが必要です .ZIP ファイル。

手順

1. OnCommand Insight をインストールするサーバにログインします。
2. NetApp Support Site からインストールファイルをダウンロードします。

OnCommand Insight サーバをインストールしています

OnCommand Insight サーバは、コマンドラインを使用してインストールします。

作業を開始する前に

インストールの前提条件をすべて満たしておく必要があります。

手順

1. sudo権限があるアカウントでInsight Serverにログインします。
2. インストールファイルが保存されているサーバー上のディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します。

```
unzip oci-<version>-linux-x86_64.zip
```

インストールファイルのバージョン番号を確認してください。バージョン番号は、コマンドに表示されているものとは異なる場合があります。

3. の構文、コマンド引数、およびパラメータの使用方法を確認できます `oci-install.sh` :

```
sudo ./oci-<version>-linux-x86_64/oci-install.sh --help
```

4. インストールスクリプトを実行します。

```
sudo ./oci-<version>-linux-x86_64/oci-install.sh
```

Insight ServerをCentOS 9 Stream、Red Hat Enterprise Linux 9.4、またはOracle Linux 9.4にインストールする場合は、まずインストーラファイルが格納されているディレクトリに変更してから、コマンドラインオプション「`--install-mysql-dependencies`」を使用してインストールコマンドを実行する必要があります。

```
cd /tmp/oci-7.3.16.1.297-linux-x86_64
sudo ./oci-install.sh --install-mysql-dependencies
```

5. ライセンス契約を読み、同意して、画面の指示に従います。

6. Insightの消費ライセンスモデルを使用している場合は、使用状況の情報をネットアップに送信することを有効にする必要があります。入力するコマンド `Y` をクリックします。

結果

すべてのプロンプトを回答 にすると、インストールが開始されます。所要時間は約10分です（インストールされているアプリケーションによって異なります）。

1. Remote Acquisition Unit (RAU) をインストールする場合は、`SecurityAdmin Tool`を実行して`_acquisition_user`のパスワードを作成する必要があります。このパスワードは、RAUのインストール時に必要になります。

注:このパスワードを作成した場合は、以下に示すようにサーバーとRAUを同期する必要はありません。

サーバをDWHおよびRAUと同期



Remote Acquisition UnitやData Warehouseのインストールが完了したら、OnCommand Insight サーバとRAU / DWHを同期する必要があります*。以下の手順に従います。

["サーバとRAUの同期（Windows）"](#)

["サーバとDWHの同期（Windows）"](#)

["サーバとRAUの同期（Linux）"](#)

["サーバとDWHの同期（Linux）"](#)

OnCommand Insight Data Warehouseをインストールしています

インストールは自己完結型で、OnCommand Insight Data Warehouse（DWH）の実行と運用に必要な要素が含まれています。

作業を開始する前に

インストールの前提条件をすべて満たしておく必要があります。

このタスクについて

Data WarehouseにはCognosのレポート機能があります。InsightをLinuxサーバにインストールする場合は、Data WarehouseをWindowsサーバにインストールする場合にのみ、これらの機能を使用できます。WindowsへのData WarehouseのインストールおよびCognosのレポート機能については、[_ OnCommand Insight インストールガイド（Microsoft Windows）](#) を参照してください。

手順

1. sudo権限があるアカウントでData Warehouseサーバにログインします。
2. インストールファイルが保存されているサーバー上のディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します。

```
unzip oci-dwh-<version>-linux-x86_64.zip
```

インストールファイルのバージョン番号を確認してください。バージョン番号は、コマンドに表示されているものとは異なる場合があります。

3. の構文、コマンド引数、およびパラメータの使用方法を確認できます `oci-install.sh` インストールを開始する前に：

```
sudo ./oci-dwh-<version>-linux-x86_64/oci-install.sh --help
```

4. インストールスクリプトを実行します。

```
sudo ./oci-dwh-<version>-linux-x86_64/oci-install.sh
```

Insight ServerまたはData WarehouseをCentOS 9 Stream、Red Hat Enterprise Linux 9.4、またはOracle Linux 9.4にインストールする場合は、まずインストーラファイルが格納されているディレクトリに移動

し、コマンドラインオプション「`-- install-mysql-dependencies`」を使用してインストールコマンドを実行する必要があります。

```
cd /tmp/oci-7.3.16.1.297-linux-x86_64  
sudo ./oci-install.sh --install-mysql-dependencies
```

5. ライセンス契約を読み、同意して、画面の指示に従います。

結果

すべてのプロンプトを回答 にすると、インストールが開始されます。所要時間は約10分です（インストールされているアプリケーションによって異なります）。

サーバとDWHの同期



Data Warehouseをインストールしたら、Data WarehouseとOnCommand Insightサーバを*同期する必要があります*。次の手順を実行します。

1. OnCommand Insightサーバーシステムで、* SecurityAdmin*ツールをインタラクティブモードで起動します。

```
securityadmin -i  
. _inventory_and_dwh_internal_users  
のパスワードを任意のパスワードに変更します。*以下に記載する必要があるため、これらのパスワードをメモしておいてください。  
. DWHサービスを再開します。  
. オン*各コネクター*では、*  
SecurityAdmin*ツールをインタラクティブモードで起動します。上記の手順2でメモしたパスワードが必要になります。
```

```
securityadmin -i  
. _inventory_and_dwh_internal_usersのパスワードを手順  
2で使用したパスワードに変更します。  
. コネクタのサービスを再起動します。  
. 手順2で _inventory_and_dwh_internal_users  
のパスワードを使用して、コネクタをDWHに追加します。
```

Remote Acquisition Unitのインストール

OnCommand Insight 環境には1つ以上のRemote Acquisition Unit (RAU) をインストールできます。Acquisition Unitは、(data_sources_というモジュールを介して) にアクセスし、データセンター内のさまざまなデバイスからデータを収集するネットワークで実行されます。

作業を開始する前に

インストールの前提条件をすべて満たしておく必要があります。

OnCommand Insight サーバに変更情報を転送するには、少なくとも1つのポートが開いていて、RAUサーバとサーバの間で使用可能である必要があります。不明な場合は、RAUコンピュータでWebブラウザを開き、OnCommand Insight サーバに移動して検証します。

```
https://< OnCommand Insight Server hostname >:< acquisition_port >
```

Acquisitionのデフォルトポートは443ですが、サーバのインストール時に変更されている可能性があります。接続に成功すると、OnCommand Insight 応答ページが表示され、RAUとOnCommand Insight サーバの間でポートが開いて使用可能であることが示されます。

ネットワークアドレス変換またはポートアドレス変換（NAT/PATつまり、IPアドレスの変換）を使用する環境では、InsightではNATとデバイス間のRAUの挿入のみがサポートされます。

- ・サポート対象：OnCommand Insight -> NAT-> RAU ->デバイス
- ・サポート対象外：OnCommand Insight -> RAU -> NAT->デバイス

手順

1. sudo権限があるアカウントでRAUサーバにログインします。
2. インストールファイルが保存されているサーバー上のディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します。

```
unzip oci-rau-<version>-linux-x86_64.zip
```

3. の構文、コマンド引数、およびパラメータの使用方法を確認できます `oci-install.sh` :

```
sudo ./oci-rau-<version>-linux-x86_64/oci-install.sh --help
```

4. インストールスクリプトを実行します。

```
sudo ./oci-rau-<version>-linux-x86_64/oci-install.sh
```

5. ライセンス契約を読んで同意し、画面の指示に従います。

すべてのプロンプトを回答 にすると、インストールが開始されます。所要時間は約10分です（インストールされているアプリケーションによって異なります）。

データの取得が開始されたら、設定は完了です。以下に示すように、サーバとRAUを同期する必要はありません。

サーバとRAUの同期



Remote Acquisition Unitのインストール後にデータの取得が開始されない場合は、OnCommand InsightサーバとRAUを同期します。次の手順を実行します。

1. OnCommand Insightサーバーシステムで、* SecurityAdmin*ツールをインタラクティブモードで起動します。

```
securityadmin -i
. Insight Serverの_acquisition_user
のパスワードを任意のパスワードに変更します。*以下で必要となるため、このパスワードをメモしておいてください*。
. サーバ/LAUを再起動します。
. Remote Acquisition Unit (RAU) システムで、* SecurityAdmin
*ツールを対話型モードで起動します。上記の手順2でメモしたパスワードが必要になります。
```

```
securityadmin -i
. _acquisition_userのパスワードを手順2で使用したパスワードに変更します。
. RAUを再起動します。
```

Remote Acquisition Unitのインストールを検証しています

Remote Acquisition Unitが適切にインストールされていることを確認するために、サーバに接続されているRemote Acquisition Unitのステータスを表示できます。

手順

1. Insightのツールバーで、*[Admin]*をクリックします。
2. Acquisition Units *をクリックします。
3. 新しいRemote Acquisition Unitが正しく登録され、ステータスが「Connected」になっていることを確認します。

ステータスが「Connected」になっていない場合は、サービスを再起動してください。Remote Acquisition Unitシステムにログインし、次のコマンドを実行します。

```
oci-service.sh restart acquisition
```

それでも接続されない場合は、テクニカルサポートにお問い合わせください。

インストールを確認しています

インストールが完了すると、インストールディレクトリはにあります /opt/netapp/oci。サポートされているブラウザでInsightを開くと、インストールされているかどうかを確認できます。Insightのログファイルを確認することもできます。

Insightを初めて開いたときに、ライセンスのセットアップページが開きます。ライセンス情報を入力したら、データソースを設定する必要があります。データソース定義の入力、およびOnCommand Insight のユーザと通知の設定については、_ Configuration and Administration Guide _を参照してください。

インストール時に問題が発生した場合は、テクニカルサポートに連絡して、必要な情報を提供してください。

新しい**Insight**コンポーネントがインストールされていることを確認します

インストールが完了したら、サーバに新しいコンポーネントが存在することを確認する必要があります。

手順

1. ログインしているサーバで現在動作しているサービスのリストを表示するには、次のように入力します。

```
sudo oci-service.sh status all
```

2. ログインしているサーバに応じて、リストに次の**Insight**サービスが表示されているかどうかを確認し、ステータスが「Running」であることを確認します。

- **Insight**サーバ：wildfly、acquisition、mysql、elasticsearch
- **Data Warehouse**サーバ：wildfly、mysql
- **Remote Acquisition**サーバ：acquisition

結果

これらのコンポーネントが表示されない場合は、テクニカルサポートにお問い合わせください。

Insightのログ

Insightには、調査やトラブルシューティングに役立つ多数のログファイルが用意されています。使用可能なログは、logディレクトリに一覧表示されます。BareTailなどのログ監視ツールを使用すると、すべてのログを一度に表示できます。

ログファイルはにあります /var/log/netapp/oci/wildfly/ ディレクトリ。収集ログはにあります /var/log/netapp/oci/acq ディレクトリ。データファイルはにあります /var/lib/netapp/oci。

Web UIへのアクセス

OnCommand **Insight** をインストールしたら、ライセンスをインストールし、環境を監視するように**Insight**をセットアップする必要があります。そのためには、Webブラウザを使用して**Insight** Web UIにアクセスします。

手順

1. 次のいずれかを実行します。

- **Insight**サーバで**Insight**を開きます。

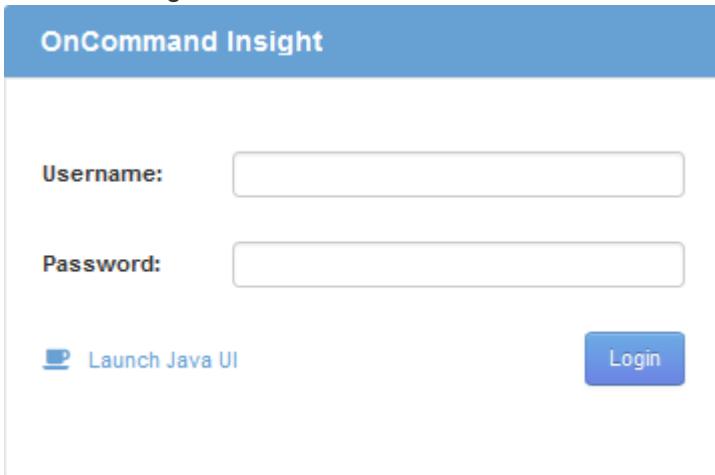
```
https://fqdn
```

- その他の場所から**Insight**を開きます。

```
https://fqdn:port
```

ポート番号には、443またはInsight Serverのインストール時に設定した別のポートを指定します。URLで指定しない場合、ポート番号はデフォルトで443になります。

OnCommand Insight ダイアログボックスが表示されま



す。

2. ユーザー名とパスワードを入力し、* Login *をクリックします。

ライセンスがインストールされている場合は、データソースのセットアップページが表示されます。



Insightのブラウザセッションが30分間アクティブでないとタイムアウトになり、システムから自動的にログアウトされます。セキュリティを強化するために、Insightからログアウトしたあとにブラウザを閉じることを推奨します。

Insightのライセンスをインストールします

Insightのライセンスキーが格納されたライセンスファイルをネットアップから受け取つたら、セットアップ機能を使用してすべてのライセンスを同時にインストールできます。

このタスクについて

Insightのライセンスキーはに格納されます .txt または .lcn ファイル。

手順

1. ライセンスファイルをテキストエディタで開き、テキストをコピーします。
2. ブラウザでInsightを開きます。
3. Insightのツールバーで、*[Admin]*をクリックします。
4. [設定]*をクリックします。
5. [ライセンス]タブをクリックします。
6. [* ライセンスの更新 *] をクリックします。
7. ライセンスキーのテキストを* License *テキストボックスにコピーします。
8. [更新（最も一般的な）]*操作を選択します。

9. [保存 (Save)] をクリックします。
10. Insightの消費ライセンスモデルを使用している場合は、セクションの[使用状況情報をネットアップに送信する]*チェックボックスをオンにする必要があります。プロキシが適切に設定され、環境に応じて有効になっている必要があります。

完了後

ライセンスをインストールしたら、次の設定作業を実行できます。

- データソースを設定します。
- OnCommand Insight ユーザアカウントを作成します。

OnCommand Insight ライセンス

OnCommand Insight は、Insight Serverで特定の機能を有効にするライセンスで動作します。

- * 発見 *

Discoverは、インベントリをサポートするInsightの基本ライセンスです。OnCommand Insight を使用するにはDiscoverライセンスが必要です。また、DiscoverライセンスをAssure、Perform、またはPlanの少なくとも1つのライセンスと組み合わせて使用する必要があります。

- 保証

Assureライセンスは、グローバルパスポリシーやSANパスポリシー、違反管理などの保証機能をサポートします。脆弱性を表示および管理するには、Assureライセンスも必要です。

- 実行

Performは、アセットページ、ダッシュボードウィジェット、クエリなどでのパフォーマンス監視、およびパフォーマンスポリシーや違反の管理をサポートするライセンスです。

- 計画

Planライセンスは、リソースの使用状況や割り当てなどの計画機能をサポートします。

- * Host Utilization Pack *

Host Utilizationライセンスは、ホストおよび仮想マシンでのファイルシステムの使用をサポートします。

- レポートオーサリング

Report Authoringライセンスでは、レポートの作成者を追加できます。このライセンスにはPlanライセンスが必要です。

OnCommand Insight モジュールのライセンスは、年間または無期限で提供されます。

- Discover、Assure、Plan、Performモジュールの監視対象容量（テラバイト）
- Host Utilizationパックのホスト数

- Report Authoringに必要なCognos Pro-Authorsの追加単位数

ライセンスキーは、顧客ごとに生成される一意の文字列のセットです。ライセンスキーは、OnCommand Insight の担当者から入手できます。

インストールされているライセンスによって、ソフトウェアで使用できる次のオプションが制御されます。

- * 発見 *

インベントリの取得と管理（基盤）

変更を監視し、インベントリポリシーを管理します

- 保証

SANパスのポリシーや違反を表示および管理します

脆弱性を確認および管理します

タスクと移行を表示および管理します

- 計画

リクエストを表示および管理します

保留中のタスクを表示および管理します

リザベーション違反を表示および管理します

ポートバランス違反を表示および管理します

- 実行

パフォーマンスデータ（ダッシュボードウィジェット、アセットページ、クエリのデータなど）を監視します

パフォーマンスポリシーや違反を表示および管理します

次の表に、adminユーザとadmin以外のユーザについて、Performライセンスがある場合とない場合に使用できる機能の詳細を示します。

機能 (admin)	Performライセンスあり	Performライセンスなし
アプリケーション	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
仮想マシン	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
ハイパーバイザー	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません

ホスト	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
データストア	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
VMDK です	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
内部ボリューム	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
ボリューム	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
ストレージプール	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
ディスク	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
ストレージ	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
ストレージノード	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
ファブリック	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
スイッチポート	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません。「Port Errors」には「N/A」と表示されます。
ストレージポート	はい。	はい。
NPVポート	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
スイッチ	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
NPVスイッチ	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません

qtree	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
クオータ	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
パス	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
ゾーン	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
ゾーンメンバー	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
汎用デバイス	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
テープ	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
マスキング	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
iSCSIセッション	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
ICSIネットワークポータル	はい。	パフォーマンスデータやグラフはありません
検索	はい。	はい。
管理	はい。	はい。
ダッシュボード	はい。	はい。
ウィジェット	はい。	一部使用可（アセット、クエリ、管理の各ウィジェットのみ使用可能）
違反ダッシュボード	はい。	非表示
アセットダッシュボード	はい。	一部使用可（ストレージIOPSとVM IOPSのウィジェットは非表示）

パフォーマンスポリシーの管理	はい。	非表示
アノテーションを管理します	はい。	はい。
アノテーションルールを管理します	はい。	はい。
アプリケーションを管理します	はい。	はい。
クエリ	はい。	はい。
ビジネスエンティティの管理	はい。	はい。

フィーチャー (Feature)	ユーザ- Performライセンスあり	ゲスト- Performライセンスあり	ユーザ- Performライセンスなし	ゲスト- Performライセンスなし
アセットダッシュボード	はい。	はい。	一部使用可（ストレージIOPSとVM IOPSのウィジェットは非表示）	一部使用可（ストレージIOPSとVM IOPSのウィジェットは非表示）
カスタムダッシュボード	表示のみ（作成、編集、保存のオプションはありません）	表示のみ（作成、編集、保存のオプションはありません）	表示のみ（作成、編集、保存のオプションはありません）	表示のみ（作成、編集、保存のオプションはありません）
パフォーマンスポリシーの管理	はい。	非表示	非表示	非表示
アノテーションを管理します	はい。	非表示	はい。	非表示
アプリケーションを管理します	はい。	非表示	はい。	非表示
ビジネスエンティティの管理	はい。	非表示	はい。	非表示
クエリ	はい。	表示と編集のみ（保存オプションなし）	はい。	表示と編集のみ（保存オプションなし）

インストールのトラブルシューティング

OnCommand Insight のインストールは、通常、インストールウィザードを使用して管理します。ただし、コンピュータ環境によっては、アップグレード中に問題が発生したり、競合が発生したりする可能性があります。

また、ソフトウェアのインストールに必要なOnCommand Insight ライセンスがすべてインストールされていることを確認する必要があります。

ライセンスがありません

OnCommand Insight 機能ごとに異なるライセンスが必要です。OnCommand Insight に表示される内容は、インストールされているライセンスによって制御されます。各ライセンスで制御される機能については、「OnCommand Insight ライセンス」セクションを参照してください。

各ライセンスで制御される機能については、「OnCommand Insight ライセンス」セクションを参照してください。

オンラインテクニカルサポートリクエストの送信

Insightのインストールで問題が発生した場合は、サポートに登録しておくとオンラインのテクニカルサポートリクエストを送信できます。

作業を開始する前に

オンラインサポートサービスを利用するには、会社のEメールアドレスを使用してサポートカスタマーとして登録する必要があります。登録はサポートサイトで行います。

このタスクについて

カスタマーサポートがインストールの問題を解決できるようにするには、次の項目を含め、できるだけ多くの情報を収集する必要があります。

- Insightのシリアル番号
- 問題の概要
- Insightのすべてのログファイル
- エラーメッセージのスクリーンキャプチャ

手順

1. を作成します .zip トラブルシューティングパッケージを作成するために収集した情報のファイル。
2. サポートサイトにログインします "mysupport.netapp.com" をクリックし、* Technical Assistance *を選択します。
3. [ケースを開く]*をクリックします。
4. データのパッケージの指示に従ってください。

完了後

[Technical Assistance]ページの[Check Case Status]*を使用して、リクエストに従うことができます。

Insightのアップグレード

新しいバージョンのOnCommand Insightが利用可能になった場合は、新しい機能や問題の修正を利用するためにはアップグレードが必要になります。Insight ServerとData Warehouse (DWH)は別々にアップグレードする必要があります。



アップグレードプロセスではインストールフォルダ全体が上書きされるため、Insightのインストールディレクトリには自動または手動のバックアップを保存しないでください。これらのディレクトリのいずれかにバックアップファイルを保存している場合は、アップグレードまたはアンインストールのプロセスを実行する前に、バックアップを別の場所に移動する必要があります。

新しいバージョンのInsightでは、より多くのディスクスペース、メモリ、CPUが必要になります。Insightの最新バージョンにアップグレードする前に、インストール要件を確認してください。詳細なサイジングガイドについては、Insightをインストールまたはアップグレードする前に、担当のセールスエンジニアに問い合わせることを強く推奨します。

Insightソフトウェアをアップグレードする前に、セキュリティバックアップとデータベースバックアップを実行することを推奨します。

Insightをバージョン7.3.12以降にアップグレードしています（Linux）

OnCommand Insight 7.3.10-7.3.11から7.3.12以降にアップグレードする前に、OCIデータ移行ツールを実行する必要があります。

背景（Background）

OnCommand Insight バージョン7.3.12以降では、以前のバージョンと互換性のないソフトウェアが使用されます。Insightバージョン7.3.12以降には、アップグレードに役立つ*データ移行ツール*が含まれています。



OnCommand Insight バージョン7.3.9以前はサポートされなくなりました。これらのいずれかのバージョンを実行している場合は、7.3.12以降にアップグレードする前に、Insightバージョン7.3.10以降（7.3.11を推奨）にアップグレードする必要があります。

データ移行ツールの機能

移行ツールは、最初の互換性チェックを実行し、3つの異なるアップグレードパスのいずれかに従います。選択したパスは、現在のバージョンのデータ互換性に基づいています。



アップグレードの前に、Data Migration Toolを実行し、推奨される手順に従う必要があります。

始める前に

- データ移行ツールを実行する前に、OnCommand Insight システムをバックアップすることを強く推奨します。
- サーバ上のElasticsearchサービスが稼働している必要があります。
- Insightをアップグレードする前に、データベースとパフォーマンスアーカイブに対してData Migration Tool_must_beを実行してください。

データ移行ツールの実行

1. 最新バージョンのData Migration Tool (_SANSscreenDataMigrationTool-x86-7.3.12-97.zip_など) と適切なInsightインストーラファイルをInsight Serverにダウンロードします。作業フォルダに解凍します。ダウンロードはにあります "[NetApp Support Site](#)"。
2. コマンドウィンドウを開き、作業フォルダに移動します。
 - Bashシェルをお勧めします。
3. 次のコマンドを使用してデータ移行ツールを実行します。
 - `sudo ./SANSscreenDataMigrationTool.sh`
4. 必要に応じて指示に従います。次に例を示します。

```
sudo ./SANSscreenDataMigrationTool.sh

NetApp SANScreen Data Migration Tool 7.3.12-132

OCI 7.3.10.8.139 is installed
Elasticsearch REST port = 9200

Checking Elasticsearch service...
Elasticsearch service is up

Checking for obsolete (version 5) indexes...
Found 54 obsolete indexes. Of these,
    54 indexes may be migrated with OCI server running,
        the most recent of which is for 2021-05-13

Verifying migration component is present...
SANScreen Server service is Running

Proceed with online migration of 54 indexes (y or [n])?:
```

Data Migration Toolは、システムに古いインデックスが存在するかどうかをチェックし、検出されたインデックスがあるかどうかをレポートします。存在しない場合、ツールは終了します。

SANscreen サーバサービスの実行中に、一部のインデックスが移行される場合があります。その他のものは、サーバーが停止しているときにのみ移行できます。移行できるインデックスがない場合、ツールは終了します。それ以外の場合は、指示に従ってください。

Data Migration Toolが完了すると、古いインデックスがないか再確認されます。すべてのインデックスが移行されている場合は、OnCommand Insight 7.3.12へのアップグレードがサポートされていることが通知されます。これで、Insightのアップグレードを続行できます。

```
sudo ./SanscreenDataMigrationTool.sh

NetApp SANScreen Data Migration Tool 7.3.12-132

OCI 7.3.10.8.139 is installed
Elasticsearch REST port = 9200

Checking for obsolete (version 5) indexes...
Found 76 obsolete OCI indexes. Of these,
76 indexes may be migrated with OCI server running

SANscreen Server service is running

Proceed with online migration of 76 indexes (y or [n])? y
If you supply performance archive location, entries for any dates with
migrated
indexes will be replaced. Each orginal entry will be renamed and you may
delete
it after migration is completed.
When prompted enter the archive location including the site-name
directory.

Enter the location of the performance archive or blank if none:
Performance archive entries will not be updated

Running the migration application with options -u http://localhost:9200
--online -sa -

Preparing to migrate oci-timeseries-disk-2021-03-22: copied; backup;
delete old; restore new; cleanup; done.
Preparing to migrate oci-timeseries-internalvolume-2021-03-22: copied;
backup; delete old; restore new; cleanup; done.
Preparing to migrate oci-timeseries-port-2021-03-22: copied; backup;
delete old; restore new; cleanup; done.
...
Preparing to migrate oci-timeseries-disk-2021-03-27: copied; backup;
delete old; restore new; cleanup; done.
Execution time 0:08:17
Checking for obsolete (version 5) indexes...

No obsolete indexes found. Upgrade and Inline Upgrade to 7.3.12+ are
supported
```

SANscreen サービスの停止を求めるメッセージが表示された場合は、Insightをアップグレードする前にサービスを再起動します。

検証に失敗しました

インデックスの検証が失敗した場合、移行ツールは終了前に問題を通知します。

- OnCommand Insight が存在しません：*

```
./SanscreenDataMigrationTool.sh

NetApp SANScreen Data Migration Tool v1.0

Checking OnCommand Insight Installation...
ERROR: OnCommand Insight is not installed
```

- Insightバージョンが無効です：*

```
./SanscreenDataMigrationTool.sh

NetApp SANScreen Data Migration Tool 7.3.12-105

Checking OnCommand Insight Installation...
OnCommand Insight 7.3.4 (126) is installed
ERROR: The OCI Data Migration Tool is intended to be run against OCI 7.3.5
- 7.3.11
```

- Elasticsearchサービスが実行されていません：*

```
./SanscreenDataMigrationTool.sh
NetApp SANScreen Data Migration Tool 7.3.12-105

Checking OnCommand Insight Installation...
OnCommand Insight 7.3.11 (126) is installed

Getting installation parameters...
Elasticsearch Rest Port: 9200

Checking Elasticsearch service...
ERROR: The Elasticsearch service is not running

Please start the service and wait for initialization to complete
Then rerun OCI Data Migration Tool
```

コマンドラインオプション

Data Migration Toolには、その動作に影響するいくつかのオプションパラメータが含まれています。

オプション (Linux)	機能
-s	--silent
すべてのプロンプトを非表示にします	-a
-アーカイブ	<p>指定すると、インデックスが移行された日付の既存のアーカイブエントリが置き換えられます。パスは、アーカイブエントリzipファイルが格納されているディレクトリを指す必要があります。</p> <p>引数に「-」を指定すると、更新するパフォーマンスアーカイブがないことを示します。</p> <p>この引数が指定されている場合、アーカイブ場所のプロンプトは表示されません。</p>
-c	--check
存在する場合、スクリプトはインデックスカウントを報告した直後に終了します。	-d
--dryrun	存在する場合、移行実行可能ファイルは実行されるアクション（データの移行とアーカイブエントリの更新）を報告しますが、操作は実行しません。
-p	— port
指定した値がある場合は、ElasticsearchのRESTポートとして使用します。存在しない場合は、可能であればインストールから値を取得します。存在しない場合は、デフォルト値の9200を使用します。 i 一部のLinux OnCommand Insight 環境では、Elasticsearch RESTポートがデフォルトの9200ポートで実行されていない場合があります。この場合は、--portオプションを使用して値を指定します	-h
--help	使用状況の情報を表示します

トラブルシューティング

アーカイブエントリが更新された場合は、更新されたアーカイブの所有権と権限が正しいことを確認する必要があります。これらは* ocisys ocisys 644 *である必要があります。サポートされていない場合は、パフォーマンスアーカイブフォルダに移動して次のコマンドを実行します。

```
chown ocisys *
chgrp ocisys *
chmod 644 *
```

Insight Serverソフトウェアをアップグレードしています

OnCommand Insight サーバの更新は、サーバにログインしたあとに確認できます。



OnCommand Insightをアップグレードする前に、ボルトとデータベースをバックアップすることを強く推奨します。

ボルトの詳細については、手順を参照してください["securityadminツール"](#)。

手順

1. Insightのツールバーで、*[Help]*アイコンをクリックします。
2. [Check for updates]*を選択します。
3. が表示されたら、* OK *をクリックします Version is up to date メッセージが表示されます。
4. 新しいバージョンが検出された場合は、メッセージボックスの*ここにダウンロード*リンクをクリックします。
5. [ダウンロード]ページで、[ダウンロード]*をクリックします。ダウンロードディレクトリの場所をメモします。

NetApp Support Site から新しいバージョンをダウンロードすることもできます。

6. sudo権限があるアカウントでInsight Serverにログインします。
7. ダウンロードディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します。

```
unzip oci-<version>-linux-x86_64.zip
```

インストールファイルのバージョン番号が正しいことを確認します。

8. の構文、コマンド引数、およびパラメータの使用方法を確認できます `oci-install.sh` :

```
sudo ./oci-<version>-linux-x86_64/oci-install.sh --help
```

9. インストールスクリプトを実行します。

```
sudo ./oci-<version>-linux-x86_64/oci-install.sh
```

10. ライセンス契約に同意し、画面の指示に従います。

Data Warehouseソフトウェアをアップグレードしています

Insight Serverソフトウェアをアップグレードしたら、Data Warehouseソフトウェアをアップグレードする必要があります。

このタスクについて



DWHをアップグレードする前に、バックアップとデータベースをバックアップすることを強く推奨します。

ボルトの詳細については、手順を参照してください["securityadminツール"](#)。

手順

1. sudo権限があるアカウントでData Warehouse (DWH) サーバにログインします。
2. NetApp Support Site からInsight DWHソフトウェアをダウンロードします。
3. ダウンロードディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します。

```
unzip oci-dwh-<version>-linux-x86_64.zip
```

インストールファイルのバージョン番号が正しいことを確認します。

4. の構文、コマンド引数、およびパラメータの使用方法を確認できます `oci-install.sh` :

```
sudo ./oci-dwh-<version>-linux-x86_64/oci-install.sh --help
```

5. インストールスクリプトを実行します。

```
sudo ./oci-dwh-<version>-linux-x86_64/oci-install.sh
```

6. ライセンス契約に同意し、画面の指示に従います。

Remote Acquisition Unitソフトウェアをアップグレード中です

Insight Serverソフトウェアをアップグレードしたあとに、Remote Acquisitionソフトウェアをアップグレードする必要があります。



DWHをアップグレードする前に、バックアップとデータベースをバックアップすることを強く推奨します。

ボルトの詳細については、手順を参照してください["securityadminツール"](#)。

手順

1. sudo権限があるアカウントでRemote Acquisition Unit (RAU) サーバにログインします。
2. NetApp Support Site からInsight RAUソフトウェアをダウンロードします。
3. ダウンロードディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します。

```
unzip oci-rau-<version>-linux-x86_64.zip
```

インストールファイルのバージョン番号が正しいことを確認します。

4. の構文、コマンド引数、およびパラメータの使用方法を確認できます `oci-install.sh` :

```
sudo ./oci-rau-<version>-linux-x86_64/oci-install.sh --help
```

5. インストールスクリプトを実行します。

```
sudo ./oci-rau-<version>-linux-x86_64/oci-install.sh
```

6. ライセンス契約に同意し、画面の指示に従います。

WindowsからLinuxへの移行

既存のWindowsがインストールされている環境でInsightをLinuxで使用するには、移行を実行する必要があります。この手順は、Insight ServerコンポーネントとData Warehouseコンポーネントの両方で実行する必要があります。

手順

1. 現在インストールされているInsightをサーバにバックアップします。

OnCommand Insight データベースのバックアップ方法については、OCI構成および管理ガイド_を参照してください。

2. Insight for Linuxをインストールします。
3. 以前のバージョンのデータベースをリストアします。

OnCommand Insight データベースのリストア方法については、OCI構成および管理ガイド_を参照してください。

4. 以前のバージョンのInsight for Windowsをアンインストールします。

OnCommand Insight をアンインストールしています

必要に応じて、OnCommand Insight コンポーネントをアンインストールできます。OnCommand Insight コンポーネントは個別にアンインストールする必要があります。

-  • OnCommand Insightをアンインストールする前に、ボルト*をバックアップすることを強くお勧めします。

詳細については、手順を参照して"[securityadminツール](#)"ください。

各コンポーネントは個別にアンインストールされます。

OnCommand Insight サーバをアンインストールしています

必要に応じて、OnCommand Insight サーバをアンインストールできます。



- OnCommand Insightをアンインストールする前に、ボルト*をバックアップすることを強くお勧めします。

詳細については、手順を参照して["securityadminツール"](#)ください。

作業を開始する前に

ベストプラクティス：Insightをアンインストールする前に、OnCommand Insight データベースをバックアップしてください。

手順

- sudo権限があるアカウントでOnCommand Insight サーバにログインします。
- OnCommand Insight ウィンドウがすべて閉じていることを確認します。
- の構文、コマンド引数、およびパラメータの使用方法を確認できます `oci-uninstall.sh` 次のコマンドを入力します。

```
sudo /usr/bin/oci-uninstall.sh --help
```

通常のアンインストールでは、Insightのライセンスや日次バックアップは削除されません。インストール全体を削除するには、を使用します `--purge` とOPTION `oci-install.sh` コマンドを実行します

- 次のコマンドを入力します。

```
sudo /usr/bin/oci-uninstall.sh
```

Data Warehouseをアンインストールしています

Data Warehouseは必要に応じてアンインストールできます。



- OnCommand Insightをアンインストールする前に、ボルト*をバックアップすることを強くお勧めします。

詳細については、手順を参照して["securityadminツール"](#)ください。

作業を開始する前に

OnCommand Insight Data Warehouse (DWH) データベースの現在のバージョンをバックアップします。

このタスクについて

OnCommand Insight Data Warehouseをアンインストールすると、以前に収集したすべてのデータが完全に削除されます。

手順

- sudo権限があるアカウントでData Warehouseサーバにログインします。
- OnCommand Insight ウィンドウがすべて閉じていることを確認します。

3. の構文、コマンド引数、およびパラメータの使用方法を確認できます `uninstall.sh` 次のコマンドを入力します。 `sudo /usr/bin/oci-uninstall.sh --help`
4. 次のコマンドを入力します。 `sudo /usr/bin/oci-uninstall.sh`

Remote Acquisition Unitのアンインストール

Remote Acquisition Unitが不要になった場合はアンインストールできます。

- ①
 - OnCommand Insightをアンインストールする前に、ボルト*をバックアップすることを強くお勧めします。

詳細については、手順を参照して "[securityadminツール](#)" ください。

手順

1. sudo権限があるアカウントでRemote Acquisition Unitサーバにログインします。
2. OnCommand Insight ウィンドウがすべて閉じていることを確認します。
3. の構文、コマンド引数、およびパラメータの使用方法を確認できます `uninstall.sh` 次のコマンドを入力します。 `sudo /usr/bin/oci-uninstall.sh --help`
4. 次のコマンドを入力します。 `sudo /usr/bin/oci-uninstall.sh`

アンインストールスクリプトが実行されます。プロンプトの指示に従います。

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。